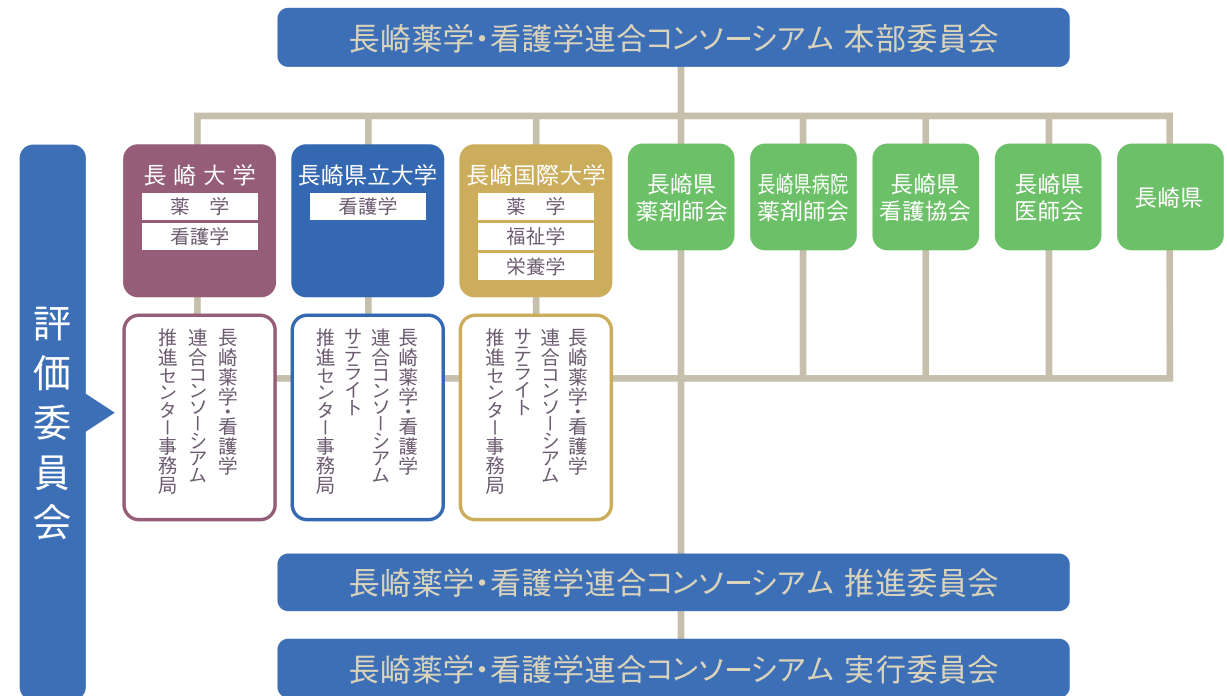
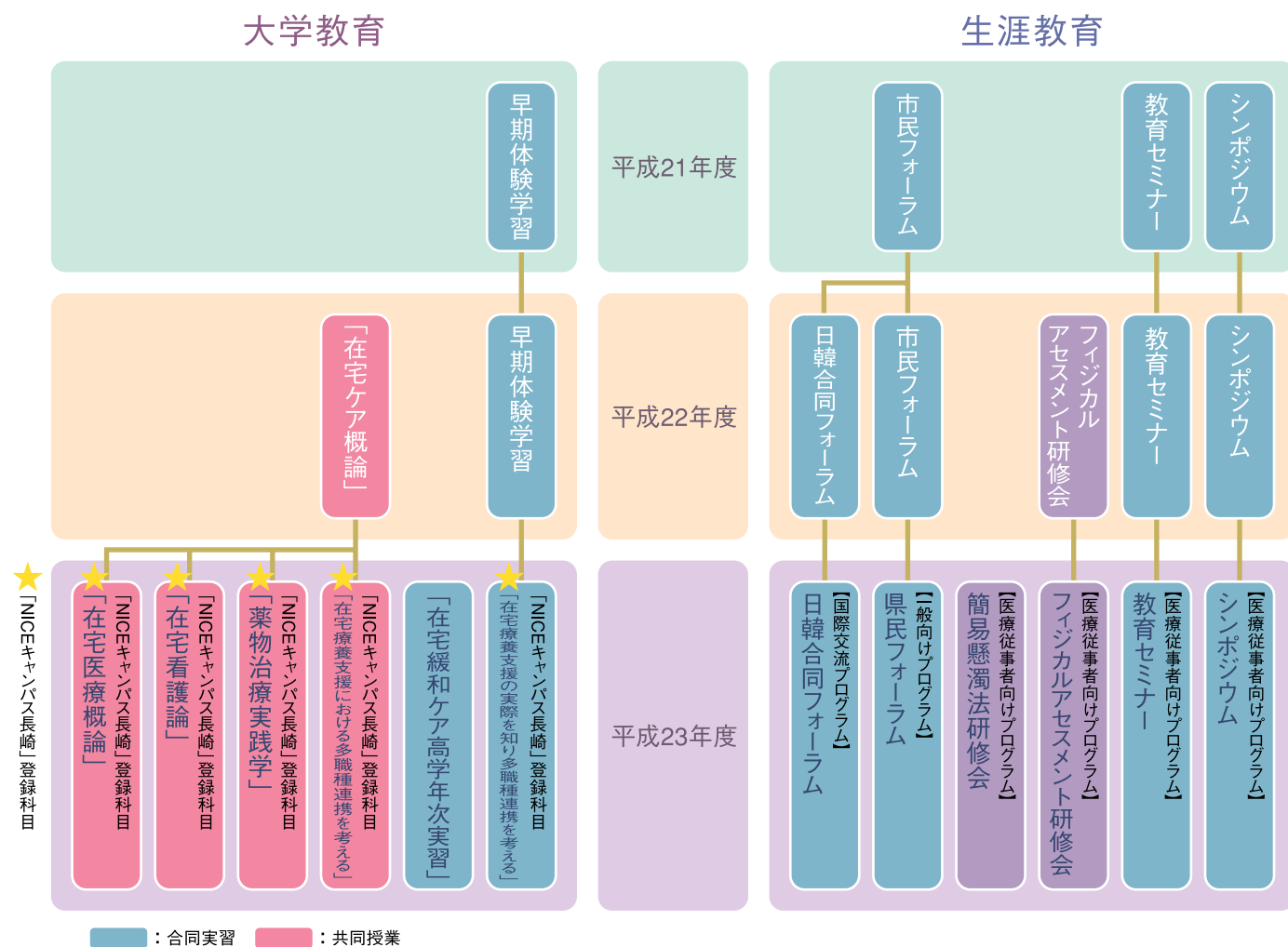


組織図



プログラム



◎平成23年度 戦略GP公開シンポジウム

平成23年12月13日(火)、長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学合同でシンポジウムを開催し、これまで取り組んできた大学連携による教育の組織的改善や、大学の地域社会貢献に関する活動内容を報告いたしました。

テーマ「長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの取組成果と今後について」

- 開会あいさつ
 - 長崎大学長 片峰 茂(取組代表者)
- 連携校代表あいさつ
 - 長崎県立大学長 太田 博道
 - 長崎国際大学長 潮谷 義子
- 特別講演
 - 「社会の中の大学」
 - 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 樋口 聡
- 戦略GP報告
 - 「長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの取組成果について」
 - 長崎大学薬学部教授 中嶋 幹郎
 - 長崎県立大学看護栄養学部教授 松本 幸子
 - 長崎国際大学薬学部教授 榊原 隆三
- パネルディスカッション
 - 「大学連携の成果と今後について」
 - 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 樋口 聡
 - 長崎大学薬学部教授 中嶋 幹郎
 - 長崎大学医学部教授 松坂 誠應
 - 長崎県立大学看護栄養学部教授 松本 幸子
 - 長崎国際大学薬学部教授 榊原 隆三
- 閉会あいさつ
 - 長崎大学薬学部長 中山 守雄



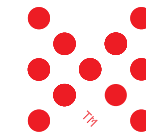
構成大学および各事務局連絡先



長崎薬学・看護学連合コンソーシアム <http://www.nagasaki-pnc.jp/>



(平成24年3月31日 発行)



ごあいさつ



取組代表者
片峰 茂
(長崎大学 学長)

平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム(戦略GP)」選定取組

在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成 | 平成21年度 ▶ 平成23年度 |

Formation of strategic base for the integrated education of pharmacy and nursing science specially focused on home-healthcare and welfare

最終報告書

ダイジェスト版

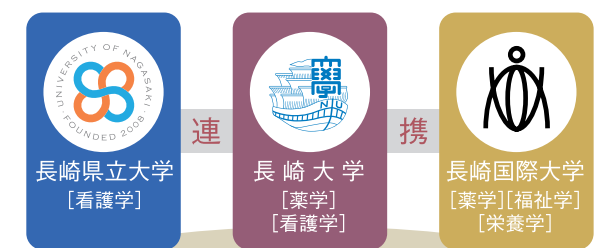


医療職には専門性があり、職能領域には制限があります。しかし、在宅医療においては、患者が必要としている薬物療法・看護・介護・栄養などのケアを、切れ目のない医療サービスとして享受できる環境整備が急務となっています。そのような状況の下、薬物療法と看護の知力に長けたチーム医療総合職ならびに保健医療福祉分野を支える人材の育成を目指す本取組は、大学と地域が連携し、大学教育および生涯学習プログラムを計画実施することにより、社会に貢献する取組として平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム(戦略GP)」に選定されました。

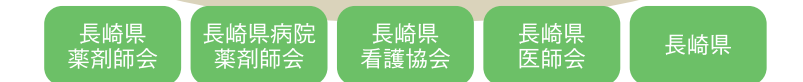
※GPとは、文部科学省により支援されているGood Practice(優れた取組)のことです。

大学連携の目的

連携する大学・学部のカリキュラムや教育者資源の利点を活かした取組を展開することにより、在宅医療や福祉に重点化した薬学と看護学の実践型統合教育システムを構築する。



連携



連携取組の内容

大学教育プログラム
構成大学等の教育資源の利点を活かした授業科目を長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学の各大学で計画し、共同授業・合同実習として実施する。

生涯学習プログラム
薬剤師、看護職をはじめとする医療従事者を対象としてチーム医療を統合的に学べるプログラムを企画し実施する。また、本プログラムを広く地域住民に公開する。

期待される効果

- 多様なニーズを抱えた患者のケアに参画できる薬剤師と看護職が養成され、長崎県全域の保健医療福祉分野を支える人材育成に繋がる。
- 在宅支援の場面で患者が必要としている薬物療法・看護・介護・栄養等のケアを患者が切れ目のない医療サービスとして享受できるケア環境の整備に繋がる。
- 医療担当者(特に医師)の負担軽減と医療リスクの低下に結びつき、長崎県全域の医療環境の強化に貢献できる。

大学教育

大学教育プログラムでは、連携する大学のカリキュラムや教育者資源の利点を活かした授業科目(医学・歯学・薬学・看護学・福祉学・栄養学等の領域)を共同授業として開講し、3大学の様々な専門領域の教育職員、本事業の専任教職員、学外の専門家が講師を務めました。また、低学年次生を対象に、在宅医療における様々な医療職の役割や連携の実態を知りチーム医療の重要性を感じるとともに、訪問看護ステーション・薬局・在宅療養支援(歯科)診療所で大学間合同早期体験学習を実施しました。高学年次生に対しては緩和ケアの視点を入れ、病院から在宅への切れ目ない医療支援や在宅緩和ケアにおけるチームアプローチについて医療・福祉の現場で合同実習を実施しました。

平成23年度以降は、「NICEキャンパス長崎(大学間単位互換制度)」へ科目登録し単位化することにより、3大学の連携学科学生のみならず長崎県内にある他大学の学生も履修できる環境を整えました。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
共同授業		「在宅ケア概論」	「在宅療養支援における多職種連携を考える」【教養科目2単位】
			「薬物治療実践学」【専門科目1単位】
			「在宅看護論」【専門科目2単位】
合同実習			「在宅医療概論」【教養科目2単位】
	「早期体験学習」	「早期体験学習」	「在宅療養支援の実践を知り多職種連携を考える(早期体験学習)」【教養科目1単位】
			「在宅緩和ケア高学年次実習」

pick up 1 ◎平成23年度 共同授業「在宅療養支援における多職種連携を考える」

第1回 オリエンテーション・在宅療養支援概論
●10月6日 ●中嶋 幹郎(薬剤師)長崎大学、坂本 仁美(看護師)長崎大学

第2回 在宅療養支援における地域連携
●10月13日 ●川崎 浩二(歯科医師)、宮崎 直代(看護師)、向田 進介(社会福祉士)長崎大学病院地域医療連携センター

第3回 在宅療養支援における緩和ケア
●10月20日 ●中尾 勲一郎(医師)ホーム・ホスピス中尾クリニック

第4回 がん看護における看護師の役割
●10月27日 ●中嶋 由紀子(看護師)長崎大学病院

第5回 がん診療における医師の役割
●11月10日 ●戸澤 和人(医師)長崎大学病院がん診療センター

第6回 在宅療養支援における認知症
●11月17日 ●赤司 千澄(看護師)長崎県立大学

第7回 在宅療養支援における介護支援専門員の役割
●11月24日 ●大町 いつみ(介護支援専門員・看護師)長崎大学

第8回 在宅療養支援における医師の役割
●12月1日 ●出口 雅浩(医師)出口外科医院

第9回 在宅療養支援における看護師の役割
●12月8日 ●中尾 八重子(看護師)長崎県立大学

第10回 在宅療養支援における薬剤師の役割
●12月15日 ●手嶋 無限(薬剤師)長崎大学

第11回 在宅療養支援における歯科医師の役割
●1月12日 ●角町 正勝(歯科医師)角町歯科医院

第12回 在宅療養支援における歯科衛生士の役割
●1月19日 ●孫野 恵美(歯科衛生士)長崎県歯科衛生士会

第13回 在宅療養支援における管理栄養士の役割
●1月26日 ●武藤 慶子(管理栄養士)長崎県立大学

第14回 在宅療養支援における訪問リハビリの役割
●2月2日 ●本田 暁一(理学療法士)長崎リハビリテーション病院

第15回 在宅療養支援における行政の役割
●2月9日 ●向原 茂明(医師)長崎県福祉保健部

【開催日時】平成23年10月6日(木)～平成24年2月9日(木)
18:30～20:00 毎週木曜日

【開催場所】長崎大学薬学部
【参加総数】896名(履修者数72名)

受講生の声

●国は人であり、国を動かすのも人なので、人が思えば国も思う。国が健康であるためにも、高齢化による医療費高騰の問題を踏まえ、患者の意を尊重した在宅療養制度を確立すべきだと思う。(薬学生)

●在宅療養を望む患者だけでなく、在宅に関わる医療従事者にも大きな負担がかかっていることを知った。今まで患者のQOLが向上する制度とを考えていたが、それだけでなく医療従事者が充実した私生活を過ごせる社会になればと感じた。(看護学生)

●地域完結型医療の実現のため、高度化・分化した医療資源をコーディネートし、連携体制づくりが喫緊の課題だと思う。(理学療法学生)

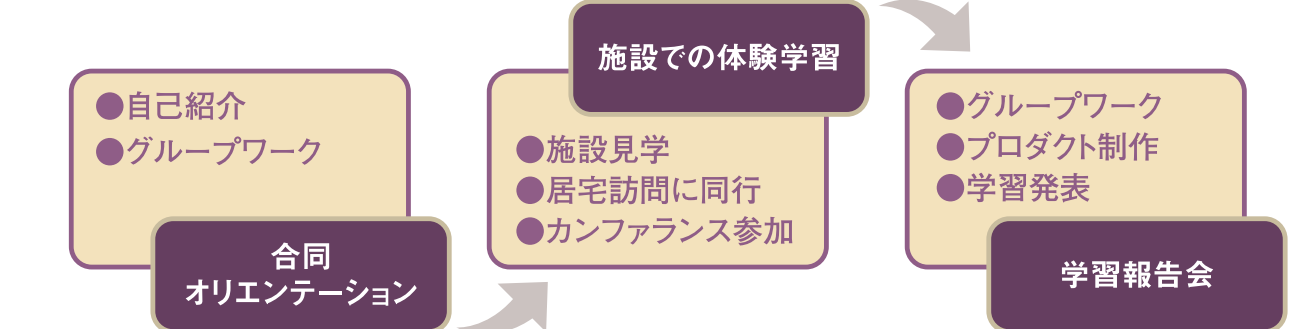
●全15回の講義に出席し、この科目は将来役立つと思った。履修して本当に良かった。(歯学生)

pick up 2 ◎平成23年度 合同実習「在宅療養支援の実践を知り多職種連携を考える(早期体験学習)」

【開催日時】平成23年9月2日(金)～9月3日(土)1泊2日合宿型

【体験学習施設】薬局、訪問看護ステーション、在宅療養支援(歯科)診療所

【参加総数】33名(履修者数30名)



▲合同オリエンテーション



▲居宅訪問



▲訪問看護ステーションでの体験学習



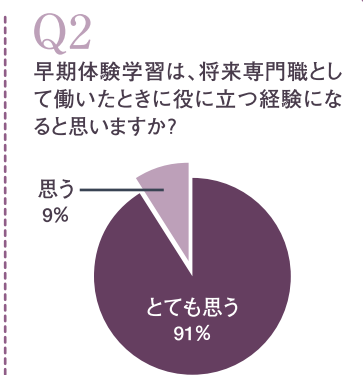
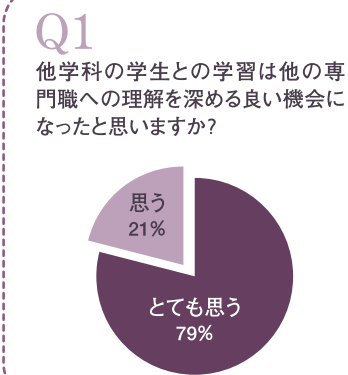
▲グループワーク



▲薬局での体験学習



▲学習発表



参加者の声

- 薬学生 ●栄養学生
- 看護学生 ●理学療法学生
- 医学生 ●留学生
- 歯学生

履修者の声

●多職種連携について、医師は治療するだけ、薬剤師は薬を出すだけでなく、患者を中心に様々な職種と連携していくことで、医療の質が向上すると思った。多職種連携の体制で在宅療養支援することが必要だと感じた。(薬学生)

●在宅療養支援で多くの職種が関わっていることを知った。1人の患者さんを支援している医師、看護師、その他の職種が積極的に情報交換を行うことがとても重要だということが分かった。報告会では、他のグループが学んだことを共有でき、充実した体験学習となった。(看護学生)

●多職種連携の大切さを改めて感じた。将来、自分も在宅療養支援ができるような知識を身につけたいと実感した。(栄養学生)

●学部の授業「医と社会」でもチーム医療の大切さについて学んでいたが、実際目で見えて肌で感じることはとても重要で身にしみるものだと思った。また、女性薬剤師の先生と関わって、Role Modelを発見できた。(医学生)

●在宅療養支援は、医師、看護師、薬剤師のみが関係しているのではなく、ヘルパーやケアマネジャー、歯科医師、歯科衛生士など、様々な職業の人々の連携により成り立っていると分かった。また、コミュニケーション能力の重要性を強く感じた。(歯学生)

生涯学習

生涯学習プログラムでは、社会人である薬剤師・看護職をはじめとする医療従事者を対象に、在宅医療における薬学的ケア・看護ケア・介護ケア・栄養ケア等をテーマとした教育セミナー、研修会、シンポジウムを開催しました。これは在宅療養者が必要としている様々なケアに対応できる臨床能力のオンデマンド型総合実践力を身につけた医療総合職の養成を目的としています。また、県民・市民フォーラムや日韓合同フォーラムを開催し、在宅医療と福祉に重点化した専門人材の養成と地域医療への貢献を目指す本事業活動を地域住民の皆様に広く公開しました。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
シンポジウム	【薬学と看護学の統合教育プロジェクト】在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成 ●中嶋 幹郎(薬剤師)長崎大学 なぜ外科医が薬局を経営し看護師を採用しているのか?～これからの地域医療を支える多職種連携と「薬局3.0」～ ●秋岡 研至(医師)ファルマデック株式会社 薬剤師の新たな業務展開のために～薬学部におけるバイタルサインの確立・救命処置処置法を取り入れたベッドサイド実習の実践～ ●徳永 仁(薬剤師)九州保健福祉大学 在宅における服薬管理～訪問看護の視点より～ ●小野 幸代(看護師)訪問看護ステーション「くもら」	【実践しよう!多職種連携による在宅支援】 第1回 多職種連携と在宅医療に必要な知識 ●松坂 誠雅(医師)長崎大学 在宅療養支援の現場に必要な保険制度・法律の知識 ●萩田 均司(薬剤師)薬局つばめファーマシー 第2回 在宅支援における訪問診療の実際 ●白龍 豊(医師)白龍内科医院 在宅支援における訪問看護の実際 ●下屋敷 元子(看護師)訪問看護ステーションYOU 在宅支援における薬剤管理指導の実際 ●佐田 悦子(薬剤師)アーク薬局	【実践しよう!多職種連携による在宅支援】 第1回 神戸大学における多職種協働教育 ●平野 ひとし(医師)京都府立医科大学附属病院 多職種連携の実践に向けた薬剤薬局看護師の取組み ●河島 生美(看護師)ファルマデック株式会社 多職種連携で機能する地域連携在宅医療システム ●中野 一司(医師)ナカノ在宅医療クリニック 第2回 在宅支援における歯科の役割～食医とは～ ●小倉 孝子(歯科医師)平成歯科クリニック 個々のニーズに対応した地域栄養ケア～おいしい笑顔は多職種で引き出す～ ●江頭 文江(管理栄養士)地域栄養ケアPEACH厚木薬剤師の助産 ●越川 法子(薬剤師)在宅療養支援薬局研究会
教育セミナー	第1回 在宅医療における多職種連携の現状と課題 ●吉岡 ゆうこ(薬剤師)有限会社ネオファイト研究所 第2回 在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成 ●水野 恭伸(薬剤師)長崎大学 長崎における在宅医療現場の現状 ●坂本 仁美(看護師)長崎大学 地域医療における多職種連携をめざす ●吉岡 ゆうこ(薬剤師)有限会社ネオファイト研究所	第1回 在宅医療に関する問題提起 ●大町 いつみ(看護師)長崎大学 第2回 栄養支援 ●牧山 嘉見(管理栄養士)長崎国際大学 第3回 栄養支援(嚥下・口腔ケア) ●猪野 恵美(歯科衛生士)長崎県歯科衛生士会	
研修会	【フィジカルアセスメント】(全3回) ●中尾 勲一郎(医師)ホーム・ホスピス中尾クリニック ●田代 隆良(医師)長崎大学 ●手嶋 無限(薬剤師)長崎大学 ●永峯 卓哉(看護師)長崎県立大学	【フィジカルアセスメント】(全6回) ●中尾 勲一郎(医師)ホーム・ホスピス中尾クリニック ●大坪 健(医師)おとつば内科クリニック ●手嶋 無限(薬剤師)長崎大学 ●坂本 仁美(看護師)長崎大学 【簡易懸濁法】(全2回) ●倉田 なおみ(薬剤師)昭和大学 ●賢勢 泰子(薬剤師)嶋山山内病院	【フィジカルアセスメント】(全6回) ●中尾 勲一郎(医師)ホーム・ホスピス中尾クリニック ●大坪 健(医師)おとつば内科クリニック ●手嶋 無限(薬剤師)長崎大学 ●坂本 仁美(看護師)長崎大学 【簡易懸濁法】(全2回) ●倉田 なおみ(薬剤師)昭和大学 ●賢勢 泰子(薬剤師)嶋山山内病院
県民・市民フォーラム	【考えよう!長崎の地域医療を】在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成 ●中嶋 幹郎(薬剤師)長崎大学 目からウロコのクイズ回答 ～看護に必要な薬学の知識～ ●野井 有美(薬剤師)長崎大学 多職種連携の中で、看護師、薬剤師に求められるものは? ●藤井 真(医師)藤井外科医院	【考えよう!長崎の地域医療を】長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの取組への期待 ●丸山 徹(薬剤師)熊本大学 多職種連携と在宅支援に関する話題提供～薬剤師の立場から～ ●吉岡 ゆうこ(薬剤師)有限会社ネオファイト研究所 地域生活につながるための多職種チーム医療のすすめ ●藤野 恵美(薬剤師)長崎大学病院 ～今!長崎に求められる地域医療のあり方～ ●東原 正紀(医師)長崎リハビリテーション病院	【考えよう!長崎の地域医療を】県民を真ん中に～地域医療のあり方とは～ ●富安 志郎(医師)長崎市立市民病院 薬を理解して、暮らしを守る～薬剤師がお手伝いします～ ●松島 由美(看護師)訪問看護ステーション亀見 長崎の地域包括ケア体制を考える中における医療連携～患者事例から歯科機能を考える～ ●角町 正勝(歯科医師)角町歯科医院
日韓合同フォーラム	【よりよい在宅医療を目指して】在宅支援に関わる制度について ●手嶋 無限(薬剤師)長崎大学 韓国に在宅看護事業 ●李 賢珠(看護師)又松中学校 家族の介護が望めない療養者の在宅での看取りを支えるには... ●趙智 幸代(看護師)在釜市東区保健院看護ステーション 末期癌患者の在宅看護事例 ●沈 照淑(看護師)忠南大学病院	【薬剤師・看護師の在宅医療に対する理解の関わり及び実践】移り変わる療養の場、暮らしの場での看護 ●大町 いつみ(看護師)長崎大学 韓国家庭看護教育課程の現状および展望 ●李 賢珠(看護師)又松中学校 在宅での看取りを支えるには... ●趙智 幸代(看護師)在釜市東区保健院看護ステーション 末期癌患者の在宅看護事例 ●沈 照淑(看護師)忠南大学病院 薬剤師の役割変化にともなう政策 ●朴 仁博(薬剤師)大韓薬師会	【薬剤師・看護師の在宅医療に対する理解の関わり及び実践】移り変わる療養の場、暮らしの場での看護 ●大町 いつみ(看護師)長崎大学 韓国家庭看護教育課程の現状および展望 ●李 賢珠(看護師)又松中学校 在宅での看取りを支えるには... ●趙智 幸代(看護師)在釜市東区保健院看護ステーション 末期癌患者の在宅看護事例 ●沈 照淑(看護師)忠南大学病院 薬剤師の役割変化にともなう政策 ●朴 仁博(薬剤師)大韓薬師会

pick up 1 ◎平成23年度 フィジカルアセスメント研修会



▲講義



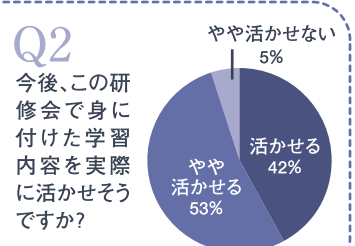
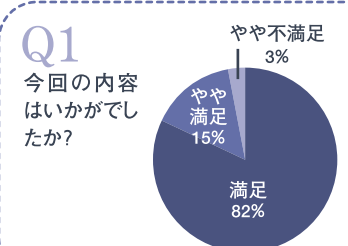
▲バイタルサインの測定



▲iPadを用いた実習



▲人体シミュレータを用いた実習



pick up 2 ◎平成23年度 簡易懸濁法研修会



▲講義



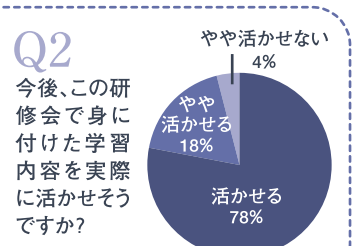
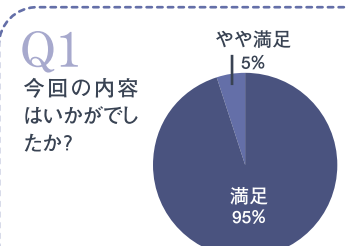
▲とりみ剤の実習



▲人体シミュレータを用いた実習



▲簡易懸濁法の実習



【開催日時】平成23年5月10日(火)、12日(木)、17日(火)、20日(金)、31日(火)、6月2日(木)

19:30～21:00

【開催場所】長崎大学薬学部

長崎国際大学薬学部

【参加総数】126名

参加者の声

- 聴診は日頃から聞き慣れておかないといけないと感じた。今回はまったく経験したことのないばかりで、とても楽しく勉強できた。
- 血圧を計るのが難しかった。異常があった時、何が原因か推察する能力が必要だと感じた。
- 初めての経験で、大変良い機会が得られた。またこのような研修会に参加したい。
- 初めての人の血圧を測り、測定のみや聴診器での聞き方など学ぶことができた。心臓・呼吸音など参考になった。
- もう少し長い時間演習が良かった。フィジカルアセスメント入門にはとても良かったと思う。
- 基本的なところを再確認できた。今後、在宅でのアセスメントに役立てていきたい。

参加者の声

- 簡易懸濁法についてまったく知らなかったのが、実際に体験できて大変勉強になった。
- 実際のシリンジへの付着の程度や、水・湯による懸濁の差を見ることができ、非常に役立つと感じた。
- これからは、服薬困難な患者さんに積極的にお話できそう。
- 勤務先の病院で簡易懸濁法を行っているが、実際にどういことがされているか知らなかった。病棟で行われていること、薬剤師の視線から注意しなければならないことを学ぶことができた。
- 業務の中で、看護師へ簡易懸濁が可能か否か伝えるだけでなく、より具体的な提案を行い、チューブ閉塞や煩雑な手技を改善できそう。
- とても有意義な時間を過ごさせていただいた。職場で簡易懸濁法を導入していきたい。